

令和5年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	45	学校名	県立清流館高等学校	校長名	左口 邦彦
------	----	-----	-----------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	思考力・判断力・表現力を伸ばし、主体的・対話的な学びを深めるとともに、課題解決に向けて探究的に取り組む態度を育む。	・オンライン・校外研修への参加 80% (研修課)	・1回以上の参加者は 85.3%であった。	B	・昨年度(77.8%)より改善したが、14.7%が、一度も参加していないと回答し、課題が残った。(研修課)
		・「授業の内容がわかる」と答える生徒 80% ・「学ぶ面白さを感じた」と答える生徒 80% ・授業を通して物事を考える方法や材料を身につけることができた、と答える生徒 80%以上 ・授業等で ICT 機器を活用した教員の割合 85%以上 ・学びの基礎診断の結果が学年、進路課で活用され、改善に結びついている。(教務課・情報管理室・進路課)	・授業の内容がわかり、面白いと感じている(保護者アンケート) 70% ・教科の授業や SP で自分の考えを表現している(生徒アンケート) 81% ・授業等で ICT 機器を活用した教員の割合 91.2% ・学びの基礎診断の結果を適切な教育目標の設定や既習事項の確認等に活用し、改善につなげている。(教員アンケート) 71%	B	・学習評価についての研究等をとおして、授業の目標を明確にすることや、授業改善する意識が浸透した成果が反映されたと感じる。さらに、内容の理解が深まるような授業改善を推進したい。 ・校内で ICT 機器活用の研修が行われた結果、活用の場面が増えている。 ・学びの基礎診断の結果を授業で活用できるような仕組みづくりを行いたい。生徒が結果から弱点を探り、具体策を立てていく基礎学力向上に繋がるサイクルを確立したい。
		・教科内で共通理解のもと、観点別評価の実践と改善が行われている。(教務課・研修課)	・教科内における「観点別評価」に対する共通理解の促進に対する肯定的意見 97.0%	A	・各教科内で実践を通じた共通理解が進んでいる。今後も評価について、職員のニーズに応じた研修を継続的に実施していく。
		・授業以外の学習を週5日以上行っていると答える生徒の割合 60% ・「自分なりの学習方法を身に付けている」と答える生徒 75% ・「学習に ICT 機器を活用していると答える生徒(1、2年生)」75% (教務課・進路課・情報管理室)	・授業以外の学習を週5日以上している(生徒アンケート)36% ・家庭での学習が定着している保護者アンケート)53% ・家庭学習の習慣化に向けて、適切な学習課題を生徒に提供している。(教員アンケート) 65%	B	・学校として家庭学習の習慣化について、分量を調整しながら、計画的に課題を出す等、進路実現に向けて、基礎学力向上や探究力を伸ばすための仕掛けが必要である。 ・ICT 機器の活用については、生徒に広く浸透しているので、学習の成果や効率について検証する必要がある。

		<ul style="list-style-type: none"> ・1か月間の無読者 30% 以下 ・生徒「読書ノート」記入数年 5冊以上 ・読書が人の気持ちを考える、社会のことを知る、知識を得るなどに有用であると答える生徒 75% ・新書を読んだ生徒 75% ・図書室講座の開催（年 6回） (図書課) 	<ul style="list-style-type: none"> ・1か月の無読者は 5.1% ・「読書ノート／読書MAP」4回提出(点検)済みである。 ・読書が人の気持ちを考える、社会のことを知る、知識を得るなどに有用と答えた生徒 84.7% ・新書を読んだ生徒 44.6% ・図書室講座 6回開催 	<p style="text-align: center;">B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1か月の無読者は 5.1% であるが、約 60%の生徒が1日の読書時間が10分程度であるため、「朝の読書」を充実させたい。 ・「読書ノート／読書MAP」の提出率について、1、2年生が電子配信されたフォームに記入し提出する方法に改めたため、提出率の向上につながっている。 ・読書感想文で約 10%の生徒が新書を読み 2000字の感想文を書きあげた。2学年SPと本校独自で実施していえる新書レポートコンテストの連携を強化し、新書を読んで考える姿勢を生徒に身に付けさせたい。
イ	自立的な生活習慣を確立し、互いを認め合い尊重する豊かな心を育む。	<ul style="list-style-type: none"> ・「進んで挨拶ができる」生徒と教員の回答ギャップ 10%以内 ・「正しい身だしなみ」生徒と教員の回答ギャップ 10%以内 ・SNSの適切な使用方法が身につけている生徒 100% (生徒課) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「進んで挨拶ができる」ギャップ 22.8% ・「正しい身だしなみ」ギャップ 47.5% ・SNSに関するトラブルが起こってしまった。 	<p style="text-align: center;">B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶について、教員側から積極的に行う必要がある。 ・身だしなみは、重点指導日を設ける等したが、日頃の声掛けや教員間での意識の統一が不十分であった。 ・SNSの適切な使用についても継続した働きかけが必要である。
		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒による企画・運営が進んでいる。 ・委員会・係活動の充実 生徒 80%以上 (生徒課・学年部) 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事において生徒の主体性が発揮できた。 ・委員会・係活動が充実と答えた生徒 94.8% 	<p style="text-align: center;">A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体的に取り組むことができた。今後もこうした取り組みを大切にしたい。
		<ul style="list-style-type: none"> ・部活動が充実している 生徒 80%以上 (生徒課) 	<ul style="list-style-type: none"> ・充実していると答えた生徒 84.1%。 	<p style="text-align: center;">A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・充実した部活動を行うことができている。
		<ul style="list-style-type: none"> ・交通事故件数 年 10 件以下 (生徒課) 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事故は 10 件であった。 	<p style="text-align: center;">B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1学期に交通事故が多発した為、外部講師を招いて交通安全講話を実施した。

	<ul style="list-style-type: none"> 生活リズムや食事、治療など健康を維持することを意識している生徒80% 治癒勧告に対する受診率75% <p>(保健課)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 朝食を食べている生徒93.0%。と昨年より改善されている。 受診率は昨年度の29%から33%に改善したが目標には達していない。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 保健日よりなど啓発活動が足りなかつたので、来年度は、いろいろな場面で生徒に対して啓発をおこなうようにする。
	<ul style="list-style-type: none"> 教室等が公共の場として整っている。公私区別ができています。 ごみの総量の減少。分別されたごみ出しができています。 <p>(保健課)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 美化委員の私物のゴミの持ち帰りを呼び掛けも含め、ゴミの分別を意識している生徒が増え、ゴミも少なくなった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 教室のゴミの分別について、美会委員を中心に引き続き取り組む。
	<ul style="list-style-type: none"> 芸術鑑賞教室の生徒満足度80%以上 事後アンケートにより効果と課題の共通認識がされている <p>(図書課)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 内容について「とてもよい」「よい」と回答した生徒92.1% 生徒にとって「演目は適していた」と評価された。また、本校を会場にした実施を検討したいとの声もあり、効果と課題の共通認識ができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 観客への呼びかけなど演出が工夫されており、演者と観客双方のコミュニケーションで作り出す演劇の魅力を生徒は実感できた。 演目も、戦時における若者の生き方を取り上げ、昨今の世界情勢を自分ごととして考える機会にもなった。会場本校とすることを検討している。
ウ	<ul style="list-style-type: none"> 模擬投票及び選挙による出前授業の実施を通して、生徒が具体的な参加イメージを持つことができる。 <p>(地歴・公民科)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 焼津市選挙管理委員会の出前授業で模擬投票を実施した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 実際の投票資材を使用したり、模擬政党の政策を比較したりすることで、実際の投票への意識を高めた。
	<ul style="list-style-type: none"> 生徒向け進路講演会3回以上 保護者向け進路講演会3回以上 <p>(進路課)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 上級学校ガイダンスなど、学年の状況に合わせて3回以上実施した。 3年生の保護者向けに奨学金、推薦制度の説明を行うなど3回以上実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 多様な進路希望に対応する内容とするため、今後もガイダンスの効果的運用を踏まえ、講師や分野を精選して実施する。 保護者向けの進路講座は、生徒に伝えたい内容も含まれているので生徒同伴の実施も考えていく必要がある。
	<ul style="list-style-type: none"> 「平和について意識が高まった」「各地域の自然や生活文化の違いへの理解が深まった」「他者を思いやる言動ができた」と回答する生徒90% <p>(2年部)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「旅行先の歴史や文化に触れ教養を高められた」生徒98%、「班員と協力して行動できた」生徒99%、「国際平和への意識を高められた」生徒99%、「SDGSが充実していた」生徒97%。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習より計画的に学習が進めることができ、効果的な研修ができた。SDGS学習をテーマに研修ができた。探究活動との連携ができた。自他を認め、集団としての言動がとれ、充実した時間を過ごせた。

		<ul style="list-style-type: none"> ・3年生進路目標の実現の満足度 90% ・必要な進路情報が入手できている 80% <p>(進路課・学年部)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進路情報の入手等の肯定的回答 74.3% <p>(保護者アンケート)</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパスや学校説明会の情報等はタイムリーに伝えることができた。今後も各学年の生徒の実情に合わせた進路情報を確実に伝えていく。
エ	教育諸活動に係る生徒への支援体制の充実を図り、「信頼される学校」づくりに努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・スクール・ミッション、スクール・ポリシーに基づく、教育活動の円滑な運用 <p>(副校長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スクール・ミッション、スクール・ポリシーに基づいて、各課室科が重点目標や取組の具体を作成した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度新たに策定されたスクール・ミッション、スクール・ポリシーについて、本校の教育活動の拠りどころとなるよう、引き続き教職員への理解を促す。
		<ul style="list-style-type: none"> ・職員研修の計画的実施とチームプロジェクトの充実 <p>(研修課)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTをテーマにした研修(4回)を行った。ICTや学校広報など4つのチームプロジェクトを実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT研修を通して授業や実務での利活用が拡大した。各チームプロジェクトの研究成果を広報活動や職員研修に還元することができた。
		<ul style="list-style-type: none"> ・定例の会議に加え、必要に応じて随時ケース会議を行い迅速な対応態勢が整えられる。 ・SCや外部専門機関とのスムーズな接続がとられている。 <p>(相談室)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・定例会議は予定通り実施した。 ・生徒と家庭の問題対応に、随時ソーシャルワーカーの派遣を要請し、ケース会議を開き対応した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な対応ができ、問題が解決方向へ進んだケースが多かった。一方で、カウンセリングを拒み、長期欠席になってしまう生徒のサポートが今後の課題である。
		<ul style="list-style-type: none"> ・会計研修実施 年1回以上 ・適正かつ効果的な予算配分及び計画的な予算執行が行われている。 <p>(事務室)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議の場を利用して実施した。 ・校内予算の配分はできなかったが、各分掌からの要望に対し可能な限り執行できるよう心がけた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・不祥事根絶取組及び職場リレー研修として、全職員の共通理解を図る機会とすることができた。 ・年々学校経営予算が縮小し、施設設備の不良等を起因とする予定外の対応に追われながらも、各分掌との連携を意識して予算執行にあたることができた。
		<ul style="list-style-type: none"> ・防災マニュアルの活用促進 ・職員の防災研修の実施 ・校内防災訓練実施 年2回以上 ・地域防災訓練参加生徒 50%以上 <p>(総務課)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理マニュアル(災害安全)を健康体育課の実地確認のもと、改訂した。 ・職員会議で危機管理マニュアルの読み合わせを実施した。 ・校内防災訓練を2回実施した。 ・地域防災訓練は実施されない自治体もあり、生徒の参加率は低かった(8.7%)。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理マニュアルに関しては情報を適切に収集し、その都度見直しをしていきたい。また、職員への周知徹底もしていきたい。

		<ul style="list-style-type: none"> ・PTA 広報紙「清流館だより」発行 年2回 ・学校広報の充実 ・一日体験入学、学校公開参加者の満足度 90%以上 (総務課、研修課) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「清流館だより」を年2回発行した。 ・学校案内のデザインを変更した。公式インスタグラムの運用を通して、本校の魅力発信を継続的に行った。PTA インスタグラムを開設した。 ・夏と秋の学校公開参加者へのアンケート結果のほとんどの項目に対して肯定的意見 90%以上。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・負担軽減のため、PTA インスタグラムを更に活用し、PTA だよりの発行を年1回とする。 ・学校案内の表紙の検討し、改善する。PTA 等と連携した広報活動が可能となり、公式インスタグラムについては、本県公立高トップの 2,800 人超のフォロワー数を獲得し、強力な広報媒体となった。 ・夏と秋の学校公開についても、それぞれ 1,018 名、522 名の参加があり、参加者の満足度もとても高かった。
オ	<p>「総合的な探究の時間」を柱として、外部との連携による学習機会の充実を図り、地域社会のリーダーとして活躍する人材を育む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・上級学年では実践や提案に繋がる探究を行う。また、探究を通して志望理由書等の進路資料作成スキルを向上させている。 ・年1回以上、探究活動発表会を実施する。 (進路課) 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年、計画的な指導を実施できた。また上級生の探究発表が下級生の模範となり、指導教員の協力も得ながら、活発な活動に繋がっている。探究活動を通して外部と繋がることで社会貢献の姿勢がうまれた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・探究での協同やプレゼン資料の作成、発表等を通して社会で求められる力を伸ばすことに繋がるので、より計画性をもって指導したい。 ・探究活動と進路指導をリンクさせることが今後の課題である。
		<ul style="list-style-type: none"> ・企業講話とキャリアデザイン講演会の実施 (進路課) 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生実施した。生徒が地域社会と関わりを持つことができた。多くの生徒が企業の協働について関心を示し、企業の地域に対する課題を自身の課題として捉え、積極的に関わろうとする姿勢が見られた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・4つの企業、1行政機関から講師を招聘し、講演を実施したことで、生徒の進路意識向上に繋がった。来年度も継続して実施したい。
カ	<p>周囲との協調性を重視し、他者の人格や人権を尊重する豊かな人間性を備え、多様な他者と協働して活躍する人材を育む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初のHR活動でエンカウンターを実施する。 ・年3回いじめアンケートを実施する。 ・相談室と連携して校内でのいじめを撲滅する。 (生徒課) 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に各クラス、学年でエンカウンターを実施した。 ・年3回いじめアンケートを実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・エンカウンターの実施や学期初めの面談を通していじめの未然防止の働きかけをすることができた。 ・担任、学年と連携し、相談室を含めて情報共有を行うことができた。

様式第3号

		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒・教職員間で場に応じた適切な言動と距離感の保持 ・学校生活が充実している 生徒 80% (生徒課) 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒・教職員間で場に応じた適切な言動と距離感が保たれている。 ・学校生活が充実している (生徒アンケート) 89.9% 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、教職員が生徒への声掛けに注意を払うとともに、生徒との私的なメール等のやり取りを行わない等適切な距離感を保ち続ける。 ・生徒の学校生活の充実に向け、教職員が一丸となって教育活動に取り組む。
キ	福祉・介護に関する知識及び技能を高め、持続可能な共生社会の担い手としての人材を育む。	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士国家試験の組織的指導体制づくりを推進する。 ・施設実習及び介護技術コンテスト等を通し、技量や意識を高めている。 (福祉科) 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員間で専門分野を担当し、国家試験対策に当たった。 ・各学年とも施設実習を実施した。介護技術コンテストにも積極的に参加した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・国家試験に向け、学習意欲が上がらない生徒に対する指導方法を引き続き模索する必要がある。 ・介護技術コンテストへの参加を通して、福祉科の生徒としての意識向上に繋がっていきたい。
		<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア、社会貢献活動に生徒が積極的に参加。 (福祉科・生徒課) 	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉科や部活単位の留まらず、個人でもボランティアを行う生徒が見られた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症が下火になったので、今後も社会状況に合わせて積極的に参加を促したい。
ク	教職員の多忙化への対応を進め、業務分担のバランスをとり、業務引継ぎが円滑に行われる体制づくりを進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・各分掌における業務の見直し及びスリム化への取組 100%。 ・業務引き継ぎ資料が整備され、業務継承に活用されている。 ・教員一人あたりの時間外労働時間を昨年度より削減する。 ・定時退庁日に帰宅しやすい環境となっている。 ・夏季休暇取得率 100% (副校長) 	<ul style="list-style-type: none"> ・分掌組織を改編した。また、分掌で抱えていた仕事のいくつかを新たに外部へ委託した。 ・コロナが5類に移行し、部活動が再開したり上級学校の入試が多様化したりする中で、時間外労働時間は全体的に増加してしまった。 ・改めて定時退庁日(毎週月曜日)を周知し、定時の帰宅を促した。 ・夏季休暇取得率 98% 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍を経て、それ以前に行われていた業務の見直しと削減について、成果を上げることができたので、学校全体で更に進めていく。 ・勤務時間管理システムを活用して、教職員がタイムマネジメントの意識を高めることができるように、管理職が働きかける。 ・管理職の率先した声掛けや業務分担に配慮するなどして、定時退庁や休暇の取得しやすい環境を作っていく。